JR ほすぴたる

第261号
2023年2月号
発行責任者
事務部長

前 立 腺 が ん

【泌尿器科　鶴谷医師】

前立腺は男性だけが持っている臓器で、膀胱の下で尿道を取り囲むように存在しています。そして精液の一部を作って精子の運動を助ける働きをしています。男性は中高年になると前立腺の病気が増えてきますが、中でも注意が必要なのが、「前立腺がん」です。

最近の高齢化や食生活の欧米化に伴い、日本人の前立腺がん患者数は増えています。国立がんセンターでは、2022年には96,400人の前立腺がん患者さまが発見され、男性に見つかった癌の数では第1位になると予測しています。また2021年に癌で亡くなった男性患者さまの中では6番目の死亡数と報告されています。

前立腺がんを見つけるには

早期の前立腺がんは多くの場合、症状がありません。前立腺がんを早期に見つけるためには、まず「がん検診」を受けることが必要になります。前立腺がん検診は人間ドックや住民検診などで広くおこなわれており、血液中にあるタンパク質の一種である前立腺特異抗原(PSA)という物質を測定するだけの簡単なものです。このPSA値が高いほど前立腺がんの疑いが強くなりますので、数値が高ければ病院を受診して、超音波検査やMRI検査などの精密検査を受けていただくことになります。最終的に前立腺がんと診断するためには、前立腺に針を刺して組織を採取する前立腺針生検という検査が必要になります。採取した前立腺の組織を顕微鏡で詳しく観察して、がんがあるかどうか、がんがあった場合にはどのくらい悪いのか、を確認します。

検診を受けると前立腺がんで死亡する危険性が低くなることが研究により証明されています。しかし検診を受けても発見できないがんがあることや、逆に寿命に影響を与えないようなおとなしいがんが見つかってしまった場合には、かえっていらぬ不安を抱えてしまったり、必要のない治療をすることになってしまう場合があるなど、がん検診を受けることによって不利益を受ける可能性もあります。

しかし60歳以下のかたは、将来前立腺がんになりやすいかどうかを予測するためにも一度は検診を受けることが推奨されます。特に父親や兄弟など身近に前立腺がんの患者さまがいらっしゃる場合には、なるべく早い年齢(40歳以降)での受診をお勧めします。

前立腺がんの治療

前立腺がんには色々な治療法があります。がんが前立腺の中にとどまっている早期がんであれば、手術療法や放射線治療が推奨されます。不幸にも前立腺がんがすでに転移してしまっているような進行がんの場合でも、がんの進行を抑える有効な薬物治療があります。前立腺がんの治療の中で大きく変わったのは手術療法です。以前から行われてきたお腹を切る開腹手術から『ダヴィンチ』と呼ばれる手術用ロボットを用いた内視鏡手術へと進化しています。ロボットを用いた内視鏡手術は、以前の手術よりも出血量が減って輸血の必要性が少なくなる、手術後の痛みが少ない、社会復帰までの時間が短縮する、などの長所を有しています。また放射線治療も色々な方法があり、体外から照射する外照射療法と、放射線を出す小さな物質を前立腺内に挿入する組織内照射療法などがあります。

もし前立腺がんが見つかった場合、がんの広がりや転移の有無、がんの悪性度、年齢や全身の状態などを参考にしながら、患者さまがそれぞれの治療法の特徴や合併症などを良く理解して、わからないことがあれば担当医とよく相談し、自分自身で治療法を選択していくことが重要になります。

以上、前立腺がんについて説明させていただきました。一般的に、前立腺がんはゆっくり進行していくと考えられていますが、一部には進行が早くて致命的な経過をたどることもあります。

もしこれまで前立腺がん検診を一度も受けたことのない40歳以降の男性社員の皆さまやご家族さまがいらっしゃいましたら、これを機会に前立腺がん検診を受けてみられてはいかがでしょうか。

視野検査について

眼科の検査の一つに、視野検査があります。視野検査とは、物の見える範囲と眼の奥の網膜の感度を調べる検査です。視野検査にもいろいろな種類があり、それらの検査により、緑内障・視神経疾患・網膜疾患・脳疾患などがわかります。

検査方法としては、片眼ずつ隠してまっすぐ見てもらい、周りに出ている光が見えたらボタンを押してもらいます。検査時間は、片眼約5～15分くらいになります。

視野は、異常があっても初期のうちは自覚症状がないときが多いです。そのため、片眼の視野が欠けていても、もう一方の眼で補うため末期まで気づかないことがあります。特に緑内障では、視神経の障害がゆっくり起こり、視野障害も少しずつ進行します。

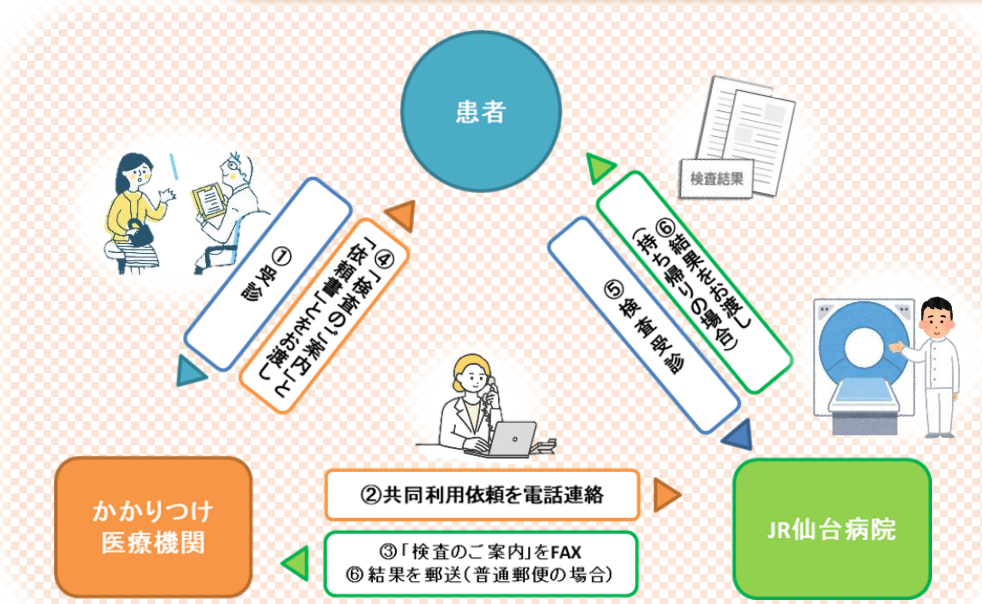
受診や健診などで視野検査を勧められた場合は、ぜひ検査を受けてください。

【 眼科 視能訓練士 佐々木 祐佳子】

『放射線医療機器の共同利用をはじめました！』

2022年12月1日より、地域の医療機関の方に、当院の医療機器を有効活用し、日々の診療に役立ていただきたいと考え、放射線医療機器共同利用を開始いたしました。

一般撮影検査・マンモグラフィ検査・骨塩定量測定検査(DEXA 法)・sterEOS 検査について、直接、電話かFAXで放射線科（022-380-2316）にお申し込みをしていただき、当院で検査のみ実施するシステムです。当院での診察や窓口会計はなく、会計やレセプト請求は依頼元の医療機関で行っていただきます。



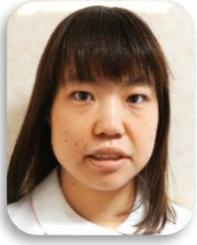
放射線機器共同利用についてのお問い合わせ

JR 仙台病院
放射線科直通
(022-380-2316)

小児科 医師
伊藤(いとう) 沙貴子(さきこ)

出身地 秋田県
趣　味 ドライブ
ひとこと 1月より異動してきました、小児科専攻医の伊藤と申します。3月までの短い期間ですが、よろしくお願い致します。

6階病棟
後藤(ごとう) 美紅(みく)



出身地 宮城県
趣　味 テレビ鑑賞
特　技 水泳
ひとこと 1月より6階病棟で勤務させていただく事になりました。一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。

JR ほすぴたる第261号
☆JR 仙台病院
代表 022-266-9671